

自由とは何か？

2011 年 9 月 20 日(火)

文責：堀越

0. 概要；

- ・ 当会史上最高参加者数の 28 名を迎え、冒頭に「自由」という概念を初めて提起し、そこから参加者と一緒に「自由」という概念に関する問いを立てることを実験的に試行した。その結果、問いを「心の中の動きにおける自由とは何か」と決定し、議論をした。

1. 問い立て；

- ・ 一周年の記念として実験的にできることはないか。参加者に能動的意識をより強く持つてもらうために、問いを立てる作業から参加してもらう実験的試みをした：
トランプのカードを用いて参加者を 4 グループに分け、参加者自身が「自由」という概念に関する問いを考えた。各グループが考えた問いを大別してみると、[1] 心の中の動きとしての自由、[2] 政治的、社会的な観点からの自由、[3] 言語的観点(Freedom と Liberty の含意の差等)からの自由、の 3 つであった。全員で議論し、「心の中の動きにおける自由とは何か？」を問いと決め、議論を開始した。

2. 議論；

- ・ 心の中の動きにおける自由とは何かという問いから出発し、(1) 心の中で個人の倫理観や文化的背景等の制約や前提条件(フィルター)を通す前に湧き上がる考え・感情の自由とは何か、(2) 心の中でフィルターを通した後の自由とは何か、どんな時に自由を感じるのか、という 2 つの視点から考え、議論した。

(1) 心の中でフィルターを通す以前に自然と湧き上がってくる考え・感情の自由とは何か？について議論した；

- ① フィルターを通る前に湧き上がってくる考え、感情には、確かに制限や前提はないが、果たして自由の自覚はあるのか。それは真の意味で自由ではなく、単なる機械的反射作用*)ではないか。

*) 因果的(または機械論的)決定論；いかなる現象も、それ以前の現象の単なる結果であり、この原因と結果の関係は因果律に支配されているがゆえに、未来は現在および過去に規定されて一意的であるとする説。全ての物理現象は、初期の条件(全ての原子の位置、スピンの向き、運動量等)が決まれば、次の時間 t 秒後の状態も完全に予測できるはずという考え方。心の中の動きも、脳内の神経細胞同士の物理化学変化と考えるなら、そもそも自由意思は存在せず、全て予め決定されていることになる。

- ② 創造・創作する場合の発想の自由は、自由を自覚しながらも、そこにはフィルターは何も存在せず、制約はないと感じる。

- ③ ②の場合においても、自覚できないだけで、既に何らかのフィルター(言語や図形等の文化的背景)を受けており、真っ白でフィルターのない自由ではないかもしれない。

(2) 心の中でフィルターを通した後の自由とは何か？について議論した；

- ① フィルターがあるからこそ、その条件が新たな領域へと拡張され、発見ができると自由を実感する。自由は、フィルターの条件緩和、領域拡大がどれだけできるかという相対的なものである。

- ② 生育環境等の不自由から解放された際に感じる自由は、最高である。また、衣装のデザインは、絵画に比べて制約条件(人が着用できること等)が多いが、その不自由な制約の範囲でこそ楽しめる自由もある。不自由と自由は表裏の関係で、不自由というフィルターが存在するからこそ、自由を実感できるのではないか。

3. まとめ；

- ・ 「自由」という概念は、現代社会では暗黙の裡に善とされ、自然状態にて付与されるべき、当たり前のことと前提化されているが、改めて何かを議論したいと考えた。心の中の動きだけに絞ってみても、倫理観等のフィルターを通る前と後では異なるはずという視点は、司会にとっても新発見であった。
- ・ 上記以外の議論にも、是非議論してみたい問いが披露されたが、その議論はまた次の機会に譲るべく、紙面の関係からその一例だけを下記に示しておく；
 - 自由は善か？
 - 自由の限界、制約とは何か？
 - 自己は、他者がいて初めて確立をできるのではないか？

以上